

第3回 人権施策推進会議議事録

開催日時 令和5年1月30日(月) 14時30分から16時40分まで

開催場所 横須賀市消防局庁舎4階 災害対策本部室

出席者

【委員】阿瀬川孝治、佐野美智子、多田幸子、角井駿輔、西村 淳、
早坂公幸、細江恵美子（敬称略、50音順）

【欠席者】森弘樹

【傍聴者】2名

【説明者】地域福祉課 藤崎課長、新倉主査、岩崎主査
福祉総務課 椿課長、白石係長
健康増進課 川田課長補佐

【事務局】市長室 井上室長

人権・ダイバーシティ推進課 杉山課長、小林係長、岩崎、桐ヶ谷

委員 8名中 7名が出席

1 開会

- ・市長室長挨拶
- ・職員紹介
- ・担当課紹介
- ・資料の確認

2 議事

(1) 事業評価シートについて

事務局

- ・資料の説明

◎ シート1について

委員長

- ・事業評価シートに前回までの議論が反映されているか確認していただくとともに、追加のご意見等があればいただきたい。
- ・2ページの8050世代等について、原因を踏まえて総合的な対応をしているということと、それに対する現在の高齢者虐待防止センターの対応に関して追記している。他のシートのほっとかんの対応と重複する表現ではあるが、各項目にかかる部分なので分けて記述をしている。

委員

- ・資料の事前確認を行ったが、問題ないものとする。

◎ シート2について

委員長

- ・成年後見制度に関して、この会議での検討を踏まえ、後見人への報酬助成要件の拡大や書類の簡素化が図られたことも記載している。
- ・このことは、会議の最終意見に基づくものでないが、本推進会議の成果だと考えている。
- ・意思決定支援についてもより広く記述を加えて整理をしている。

委員

- ・4ページ、各種チラシとなるところが“各”の文字が抜けているので修正をお願いしたい。
- ・全体を通して、これまでの議論や意見は反映されている。

委員長

- ・成年後見制度を広く知ってもらうことの課題や法人後見をどのようにしていくかは引き続き検討が必要である。
- ・市民後見人については、具体的な施策提言とまではいっていないが課題の整理ができたものと考えている。
- ・意思決定支援についても、ご本人に意思がある前提で暮らせるような環境づくりが必要であることの明記もされている。

委員

- ・7ページ、「市民後見人活動は負担が大きく、地域の方が見守っていくという観点でも広く市民後見人制度の周知が必要である。」という文章では、前段と後段の文章のつながっていないように感じる。

事務局

- ・ 法律的なことで知識が必要であり負担が大きいということと、地域の方が見守っていくという観点でも広く制度の周知が必要である。といった趣旨のご意見であった。

委員

- ・ 市民後見人は研修を受けて認定を受けているが、弁護士や行政書士に比べると圧倒的に経験が少なく対応する力は低い。
- ・ 市民後見人をサポートするような制度や体制についてのご意見をされたこと記憶している。

委員長

- ・ 市民後見人には成年後見監督人がついている。
- ・ 専門職後見人はチームとして連携して行っている。
- ・ 市としては市民後見人にどのようなフォローや支援を行っているのか。

説明者

- ・ 市民後見人の養成については市社協が研修を行っている。
- ・ 市では成年後見センターを担っており、専門職、市民後見人問わず支援の仕方についてはチームを組んでいくという姿勢に変わりはない。
- ・ 後見についたからといって、全て後見人が背負うものではなく、市社協に相談すれば全体的な考え方とアドバイスをするような体系になっているし、ほっとかんに相談すればチーム会議等でも市民後見人をフォローし、連携支援を進めていくこともできる。

委員

- ・ 何か課題があるというよりも、さらにフォローアップ体制を促すというような意見でまとめていけたらよい。

委員長

- ・ 「市民後見人に関する負担が大きいので、引続き市や市社協の関連機関による支援が重要である。高齢者の方を見守っていくという観点でも広く市民後見人制度の周知が必要である。」 というよう記述としたい。

◎ シート3について

委員長

- ・ 7ページの認知症カフェについて、前回会議の中で議論したことと説明不足の部分を整理している。
- ・ 前回会議の中では、「認知症だけではなく、ごく一般的な通いの場でいいのではないか。」といった説明があり、「認知症カフェへの支援は必要だと考えるが助成金を出せばよいという単純なものではない。現在の認知症カフェへの支援方法や、より広い認知症に特化しない「通いの場」に対する支援の形も含めて検討が必要。」といった趣旨の発言をした。
- ・ 担当課ではどのような支援方法を考えているのか教えていただきたい。

説明者

- ・ 認知症への思いから立ち上げたカフェもあれば、地域の仲間が集まって立ち上げた場に認知症の方が通うような場となっている場所もあり、総称して「通いの場」と表現している。
- ・ 認知症に関する普及啓発、当事者の方やご家族が語り合える場として認知症カフェは必要であり、「通いの場」に対してどのような支援ができるかを考えている。
- ・ 認知症カフェを始めたいという方への支援については、今のところ具体的な支援内容はないが、いろいろと話を聞きながら伴走支援のような形で立ち上げの支援ができればよいと考えている。
- ・ 既存の認知症カフェでは「自分のところはわかるが、ほかの地域のカフェについては詳しくはわからない。」というような意見も寄せられており、連絡会を開いて情報共有を図っている。

委員長

- ・ 市役所の組織改正によって、必ずしも認知症だけでなく、より広い地域力の活用という観点でカフェやサロンは今非常に注目されている。
- ・ 認知症だけでなく子ども食堂やコミュニティカフェなどを全体で考えていくといった切り口の問題で、担当課としては広い意味で通いの場として考えている。その中の一つとして認知症カフェがあり、支援が必要であると考えていることと理解した。
- ・ もう一点、事業評価シートの記述内容で、通いの場を「～判断したもの」とあるが、市が認定するようなものなのか。

説明者

- ・認定基準はなく、地域の方々とのつながりの中で「市が通いの場として認知した。」という表現が正しいかと考える。
- ・国が出している通知の文章をそのまま使ってしまったのでわかりにくくなってしまった。記述の方法を事務局と相談して修正したい。

委員

- ・地域でも認知症の方はいきいきサロンなどにも通っていて、一般の方とも普通にふれあい楽しんでいる。
- ・認知症だけでなく、高齢者や地域の仲間が集う場が続いていくとよい。

委員

- ・今のところ横須賀市内のコミュニティには認知症の方も比較的参加しやすい状況なのだと感じている。
- ・認知症の方はそれだけで社会から孤立しやすい心理状況である。認知症の方も社会とつながれる場所という権利として認知症カフェが始まり、だんだんと成熟して多様になってきているものと感じている。
- ・認知症という名称がついていないほうが来やすい人もいれば、逆に来やすい人もいる。時代が多様になってきているのは確かである。
- ・認知症に特化したカフェとして活動しているところもあれば、多様な通いの場となっているところもある。多様になってきている現状の中で、認知症カフェへの支援が必要であることを提案することはよいと思う。
- ・事業評価シートへの追記は不要だが、いまだに認知症の方に対しての特別扱いや偏見を持っている方がおり、支援をする方や周りの方の認識を変えていくことは大事である。

委員長

- ・「いろいろな形で認知症の方を受け入れている現状があり、認知症カフェの在り方をこれから考えていく必要がある。」という記述であると、認知症カフェへの支援をやめるように見受けられる。「多様な通いの場の中から認知症カフェへの支援も考えていく必要がある。」といった趣旨だと思うので、文章を修正したほうがよい。

(2)横須賀市人権施策推進会議報告書(案)について

委員長

- ・基本的には事業評価シートの内容を報告書にしたものである。
- ・この報告書が会議の成果物となるので、書き方について確認をしたい。

事務局

- ・資料の説明

委員

- ・17 ページの高齢化率という表現がわかりにくい。
- ・高齢者率であると市民全体の何%が高齢者というような理解ができるが、何か定義があるのか。

委員長

- ・一般的に、65 歳以上の市民の人口に占める割合のことを高齢化率という。
- ・おっしゃるとおり市民の方が見てもわかりやすいように高齢化率の定義をしっかりと追記することとしたい。

委員

- ・この報告書は本推進会議が誰に対して報告するものか。
- ・事業評価シートは議事録とともに残すものか。それとも報告書と一緒に提出するものかを教えていただきたい。

委員長

- ・市長からの諮問を受けて行っているものなので市長に対して報告書を提出するものとなる。

事務局

- ・事業評価シートは議事録の一部として残していくこととなる。

委員

- ・8 ページの法人後見については、事業評価シートの段落と違うところに記載されていることに問題がないか。
- ・同じく8 ページの金融機関等とのトラブルに関する相談についても、事業評価シートの段落と違うところに記載されていることに問題がないか。

事務局

- ・基本的にはA B C Dの順番としているが、若干小見出しを入れて見やすいように整理している部分もある。

委員

- ・ 17 ページの意見について、「福祉施策の必要性は大きくなってきていきます。」という記載だが、「大きくなっています。」というような表現の方がよいかと考える。
- ・ 同じく 17 ページの組織改正の一文で、「支援の必要な方に寄り添った伴走型支援を行ってきています。」となっているが、本推進会議の理解していることへと表現を修正したほうが良いかと考える。

委員長

- ・ 「行っている」かは本推進会議が評価をするものなので、「伴走型支援を行うこととしています。」というように修正する。

委員

- ・ 17 ページ以下の総合評価について、全体的に主語がない文章で、よく意味がわかりにくい。主語が横須賀市であるかのような文章に感じられる。
- ・ 評価をする主体は本推進会議なので、「本推進会議ではこういう点をこう認識している。評価している。」といった書き方に修正したほうがよい。
- ・ 文章が長いことや句読点の場所などで意味がわかりにくくなっているのので、文章全体の修正をかけたほうがよい。

委員長

- ・ この文章は、本推進会議が横須賀市はこういう風にやっていると認識していること、それに対して必要なことを意見するといった文章体系だが、横須賀市側からの説明に見えてしまう表現であることがわかった。
- ・ 表現方法について修正していきたい。

委員

- ・ これまで一生懸命考えてきたことが自身の周りにはいる人や地域の方々にはあまり情報として伝わってきていない。
- ・ 報告書を市長に提出し、市長がどう判断するかはわからないけれども、我々や横須賀市がいろいろと考えていることを市民にもわかるように発信していただきたい。
- ・ 何らかの週間だけでなく広報誌などの毎月見るものにも載せていただきたい。
- ・ そのようになってくると、もっと気軽に福祉の相談に行けたりするのではないかと思う。

委員長

- ・大変貴重な意見である。
- ・わかりやすく発信することが必要であることを報告書に記載することとしたい。
- ・市長に報告書を提出するということは市民に出すことと同じである。
- ・我々が検討してきた良いことや悪いことがしっかりと改善されているかなどをわかりやすく発信するということは非常に大事である。

委員

- ・賛成である。
- ・P D C Aのように提案から結果、そしてその先までを示すことはよい。
- ・さらに次の推進会議の中で報告する機会を設けてもらうことも必要である。
- ・このような情報を発信していくことにより、市民の方に伝わり、住民の皆さんの思いが実現されていくものと感じる。

委員長

- ・本日の委員のご意見を踏まえて最終的な報告書の文面を確定させたい。
- ・会議が今回で最後となるので、文言等詳細については委員長にご一任いただき、事務局と協議のうえ修正作業を行うこととさせていただいてよろしいか。

～ 異議なしの声 ～

- ・修正した報告書は、まず委員に見ていただいてから市長に提出することとする。
- ・報告書に関する今後の予定を事務局から説明していただきたい。

事務局

- ・「報告書」は各委員へメール送付とあわせて郵送でも送付させていただく。その後3月に市長へ推進会議からの答申として提出し、あわせて市議会議員あてにも送付させていただく予定である。
- ・ご意見の施策への反映については、新年度に庁内の関係課長会議に諮り、実現可能かどうか、どのような方法が良いかなどを議論することとなる。

(3) 令和5年度の会議テーマについて

事務局

- ・資料説明
- ・会議手法を変更することで、市の施策全体を人権の視点で考え、より良い市政運営としていきたいと考えている。

委員長

- ・これまでの人権施策推進会議は毎年一つのテーマを選んで行っていくという方法だった。
- ・高齢者に関しては、コロナの関係もあり2年にわたって議論してきた。
- ・人権施策推進指針の中には11の個別テーマがあつて順繰りと審議していたが、次からは第1回会議で指針全体をフォローアップしながら、第2回にはそのうちのトピックと思われる部分を取り上げていくこととなる。
- ・委員の構成もこれまではテーマを選んでその専門家2名が入っていたが、トピックに関する意見聴取者を招聘する形でご意見を伺う形式である。

委員

- ・幅広く見識を持っていないとトピックを設定するところまで行きつかないかもしれない。少し不安もあるが、このような形式も面白いと思う。

委員長

- ・今期の委員は横断的な視点で考えることができる方ばかりであった。ぜひ今期のような議論ができればと思う。
- ・下準備を含めて委員の負担が大きく大変となるかもしれないが、人権施策推進会議という横断的な審議会の存在意義からすると、全体を見るという考え方は一つあると思う。
- ・このような会議手法を変更していくと提案であった。

3 その他

- ① 今回の会議が最終となるため各委員から一言ずつ挨拶
- ② 事務局からの伝達事項
 - ・来年度の推進会議の委員就任については、改めて個別に相談をさせていただきます。

4 閉会